

設立

福島県では、昭和41年の東北自動車道建設工事を契機として開発に伴う埋蔵文化財の調査が大規模化しました。

その後、母畑地区(郡山市・須賀川市を始めとする2市1町2村の4,000haを超える範囲)で国営総合農地開発事業が促進されることとなり、埋蔵文化財保護行政の体制強化が求められました。

これに対応するため、福島県教育委員会は昭和52年4月に、財団法人福島県文化センター内の事業第二部に埋蔵文化財調査を担う遺跡調査課を設置し、県教育委員会からの委託により埋蔵文化財調査を開始しました。

沿革

1977(昭和52年)●財団法人福島県文化センター内に、遺跡調査課 設立

1985(昭和60年)●岡部分室 開設

1988(昭和63年)●杉妻分室 開設

1993(平成5年)●遠瀬戸分室 開設

1994(平成6年)●市町村埋蔵文化財調査技術協力事業を福島県教育委員会から受託する。

1996(平成8年)●杉妻分室から山下町分室へ移動。

2001(平成13年)●財団法人福島県文化センターの改組に伴い、事業第二部遺跡調査課を財団法人福島県文化振興事業団遺跡調査部遺跡調査課と改称。
山下町分室と遠瀬戸分室を、それぞれ山下町調査室・遠瀬戸調査室に改称。岡部分室から渡利分室へ移動。

2005(平成17年)●遠瀬戸調査室を山下町調査室へ統合。

2006(平成18年)●遺跡調査課から遺跡調査グループへ名称変更。
山下町調査室を山下分庁舎に名称変更。

2009(平成21年)●遺跡調査グループから遺跡調査課へ名称変更。

2011(平成23年)●東日本大震災

2012(平成24年)●財団法人福島県文化振興基金との合併に伴い、財団法人福島県文化振興財団と改称。

2013(平成25年)●遺跡調査課を管理課・調査課の二課体制に変更。
2014(平成26年)●財団法人福島県文化振興財団から公益財団法人福島県文化振興財団へ移行。

2015(平成27年)●管理課・調査課を調査課のみの一課体制に変更。

2019(平成31年)●渡利分室が閉室され、文化財センター整備事業の機能が福島県文化センター白河館に移転。



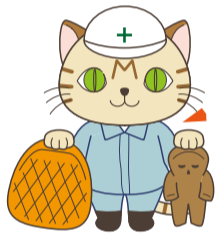
●交通アクセス/JR福島駅(東口)から
福島交通バス[市内循環ももりん1・2コース]に乗り。
「霞町」バス停下車 徒歩2分。

公益財団法人福島県文化振興財団

遺跡調査部

山下分庁舎

〒960-8115 福島県福島市山下町1-25
TEL 024-534-2733 FAX 024-525-7719
URL <https://www.fcp.or.jp/iseki/>



HPでは
発掘調査の情報や、
文化財に関するコラムを
掲載しています。



遺跡調査部公式サイトはこちら▶

未来につなぐ文化力

遺跡調査部

The Culture Promotion Organization of Fukushima Prefecture
Remains Research Department

令和3年度版



- 1 縄文時代後期の土偶 (川俣町・前田遺跡)
- 2 縄文時代後期のヒスイ製垂飾品 (川俣町・前田遺跡)
- 3 弥生時代中期後半の武器形石製品の石剣と石戈 (双葉町・後追B遺跡)
- 4 中世の鉄製獣足手取釜 (郡山市・徳定A・B遺跡)



公益財団法人
福島県文化振興財団

分布・試掘 確認調査

分布調査は、開発予定地を歩いて遺跡を見つけ、試掘・確認調査は、遺跡に小規模な調査をして遺跡の内容や範囲を確認します。これらの調査成果は分布調査報告書として刊行されます。



分布調査



試掘・確認調査

分布調査報告書

発掘調査

試掘・確認調査で把握された遺跡の範囲のうち、現状保存ができないところについては、発掘調査による記録保存を実施します。このため、発掘調査では、写真や図面で詳細な記録を行います。



発掘調査



遺構測量



木質遺物取り上げ

発掘調査 報告書の作成

調査で出土した遺物は山下分庁舎に運ばれ、洗浄・注記・接合の工程を経て計測を行った実測図を作成します。
発掘調査で得られた記録や所見をまとめ、その遺跡の年代や性格を明らかにし、調査報告書を刊行します。



遺物の接合・復元



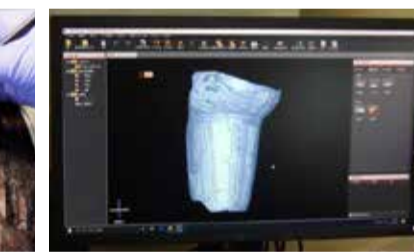
採掘



パソコンによる図面編集

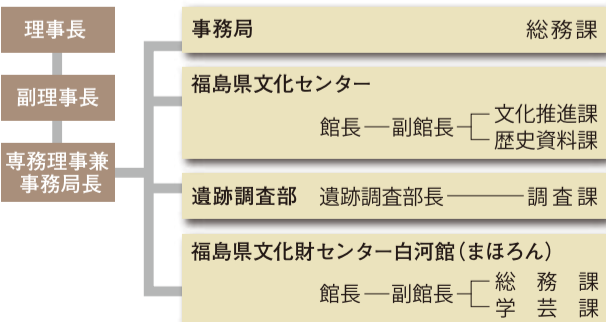


脆弱な遺物のクリーニング



3D測定機による3Dデータの作成

福島県文化振興財団の組織



業務内容

遺跡調査部は福島県教育委員会の委託を受けて、福島県内の複数市町村にまたがる広域事業や、国・県の事業に伴う発掘調査や、埋蔵文化財の有無を確認する業務を実施しています。

開発などでどうしても現状保存ができないときは、発掘調査を行い、記録により文化財を後世に残し、利活用に備えています。

●報告書刊行後の記録や出土品は福島県文化財センター白河館(まほろん)に収蔵され、研究・展示・普及活動などに活用されます。
●整理作業中の一部の出土品は、とうほう・みんなの文化センターにある『福島県文化振興財団情報コーナー』で展示しています。



啓発普及 活動

発掘調査の成果を地域に還元し、啓発普及をはかるために、県教育委員会が主催する現地説明会や地元住民への説明会などに協力しています。
また、当財団の自主事業として、調査成果の講演会などを実施しています。



歴史講演会(R2.11)



遺物展示会の様子(R2.11前田遺跡)



福島県文化振興財団情報コーナーでの展示(とうほう・みんなの文化センター)



現地説明会の様子(R2.11前田遺跡現地)

2020年度の発掘調査情報



2021年度の発掘調査予定

- 1 下郷町 栗林遺跡・中妻新田遺跡 会津縦貫南道路
- 2 川俣町 前田遺跡 国道114号改良工事(山木屋1工区)
- 3 浪江町 丈六横穴墓群 県道落合浪江線
- 4 富岡町 日南郷遺跡・高津戸館跡 県道小野富岡線

1 川俣町 | 前田遺跡(3次調査)

国道114号改良工事関連

- 所在地/伊達郡川俣町大字小綱木字前田
- 調査期間/令和2年4月~令和3年2月 ●調査面積/2,450㎡
- 時代/縄文時代・古代・中世・近世・現代
- 概要/高根川右岸の段丘上および扇状地形上に立地する遺跡で、主に縄文時代中期~晩期の遺構・遺物が多数見つかりました。縄文時代中期から後期が前田遺跡で最も集落が発展した時期です。竪穴住居跡、集石遺構、土器埋設遺構などが密集し、重複して発見されました。縄文時代後期の墓域からは、縄文人骨を伴うお墓が多数認められました。内陸部の遺跡で縄文人骨が見つかる例として非常に貴重なものです。縄文時代晩期の遺構では、建物跡または柱列と考えられる柱穴が多数見つっています。これらの柱穴内からは、100本を超える木柱が腐食せずに出土しました。直径60cmを超える木柱も見つっています。出土遺物は、土器や石器を始めとした実用品、土偶や石棒などの祭祀具、ヒスイ製垂飾品や耳飾りなどの装飾品が多数出土しています。



2 郡山市 | 徳定A・B遺跡

阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)

- 遺跡名/徳定A・B遺跡
- 所在地/郡山市田村町御代田地内
- 調査期間/令和2年4月~11月 ●調査面積/3,000㎡
- 時代/古墳時代後期~鎌倉・室町時代
- 概要/鎌倉時代の遺構・遺物が多数見つかりました。輸入陶磁器や鉄製の獣足手取釜などが出土しており、有力者の居住域であった可能性があります。



3 浪江町 | 赤坂D遺跡

県道広野小高線整備事業

- 所在地/双葉郡浪江町大字棚塩字赤坂
- 調査期間/令和2年4月~7月 ●調査面積/100㎡
- 時代/古墳時代終末~奈良時代
- 概要/令和元年度からの調査で、製鉄炉跡廃滓場1箇所、須恵器窯跡1基、瓦窯跡5基、木炭窯跡12基が確認され、古代標葉郡を支える複合的な生産拠点と推測されます。



4 双葉町 | 後迫B遺跡

中間貯蔵施設整備事業

- 所在地/双葉郡双葉町大字郡山字後迫
- 調査期間/令和2年4月~9月 ●調査面積/6,600㎡
- 時代/弥生・古墳・奈良・平安時代、近世・現代
- 概要/丘陵頂上付近から、古墳時代前期から奈良・平安時代の集落跡、江戸時代の墓域が見つかりました。弥生時代の武器形石製品である石剣・石戈(表紙)、江戸時代の墓域から錫杖が出土しています。



5 下郷町 | 栗林遺跡(4次調査)

会津縦貫南道路

- 所在地/南会津郡下郷町大字中妻字和田前・柳ノ下
- 調査期間/令和2年5~11月
- 調査面積/2,040㎡ ●時代/縄文時代
- 概要/4次調査では縄文時代中期~後期初頭の竪穴住居跡が9軒確認され、住居跡の合計数は94軒となりました。堅果類を貯蔵するための穴や獣を捕えるための落とし穴、あるいはお墓なども多数確認されています。出土した土器や石器の量は、1,000箱を超えました。

